



笹子トンネル事故の教訓

参議院議員
客員相談役

藤井基之



昨年十二月二日、中央自動車道の笹子トンネル（上り線）で、トンネルの天井板が落下し、車三台が巻き込まれ、九人が死亡するという大事故が発生しました。事故が起きた笹子トンネル上り線は、昭和四十一年（一九六六年）十二月に新笹子トンネルとして開通しました。新笹子トンネルの開通から四十六年、下り線の開通からは百九年（明治三十六年開業）が経っています。事故の原因は、天井板のつり下げに用いていたボルトの接着剤の劣化とみられ、事故後、下り線の天井板も調べたところ同様の状態となっている部分が見つかり、全ての天井板を取り外しすることとなりました。

この笹子トンネルの事故を受けて、心配なのはトンネルだけではなくという指摘が専門家などから起こっています。道路、橋、上下水道、学校など、全国に

笹子トンネルと同様に老朽化しているインフラがたくさんあり、これらは高度経済成長期の一九六〇年代（昭和三十五年頃）から八〇年代（昭和五十五年頃）にかけて造られたもので、これから次々に寿命を迎えることになるという指摘です。

そう言えば、新幹線が開業したのは、昭和三十九年、東京オリンピックの年で、高層ビルなど社会、経済のインフラが急速に整備され、我が国は戦後復興の成長期から第二次高度経済成長期に向かっていた。日本の経済成長を生み出した要因は戦前の「満州国」の経験にある、と言われています。新幹線も、実は満州鉄道（満鉄）の実績を踏まえたものだと言われています。満鉄は一九〇六年に設立されま

満鉄の夢を日本で再現すべく、新幹線建設にまい進しました。今や新幹線は日本経済を支える大動脈となっています。その新幹線が建設されてから四十九年の時が流れました。

今、我が国は世界で経済規模第三位にありますが、それを支えてきた社会的、経済的インフラが老朽化し、再整備の時期に入っているというのが現状です。加えて未曾有の東北大震災と津波、原発事故。民主政権の震災復興対策にはスピード感がなく、二年近くを経た今も多くの被災地で復興が進んでいません。また、道路、橋等の建築物だけでなく、特に気になるのは国立大学などの科学研究施設

設の老朽化です。自民政権時代、「科学技術立国」を掲げていましたが、民主党政権になってその旗印はどこかへ消えてしまいました。ペリーは、日本の手工業の技術の高さを見て、日本が開国すれば、すぐに西欧の機械技術のレベルに達し、将来きつと機械製品の覇権争いで強力な競争国となるであろう、と予言したという事です。科学技術は日本再生の切り札です。

自由民主党は、昨年末の衆議院総選挙の選挙公約において、日本再生の切り札として、「公共事業の拡充」を掲げて戦いました。「コンクリートから人へ」という耳触りのよい民主党の三年前の衆

院選の「マニフェスト」とは大きく異なる公約でしたが、国民は自民党公約を選択しました。

「公共事業」と言うとマスコミは「バラマキ」とか、税金の無駄遣いの温床、大手ゼネコンに利するだけなど、厳しく批判してきました。しかし、公共事業とは、税による社会資本の整備です。今、日本はかつての社会的、経済的強さを取り戻す、戦後第二の「復興期」にあります。震災復興、社会インフラの再整備、科学技術研究体制の整備など、優先順位をしっかりと見極め、いかに血税を適切、有効に投じ、日本再生を果たしていくか、政治の責任です。

藤井 基之

- 生年月日 昭和 22 年 3 月 16 日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 2 回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱は A(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴
昭和 37 年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和 40 年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和 44 年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和 44 年 厚生省入省
平成 9 年 厚生省退官
平成 9 年 財団法人 ヒューマンサイエンス 振興財団 専務理事
平成 12 年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人 日本薬剤師会 常務理事
平成 13 年 参議院議員 (1 期目)
平成 16 年 厚生労働大臣政務官 (平成 16 年 9 月～平成 17 年 11 月)
平成 19 年 日本薬剤師連盟 顧問
平成 22 年 参議院議員 (2 期目)
平成 23 年 参議院政府開発援助等に関する特別委員会 委員長
- その他
慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師